
DPxxxFI シリーズ

簡易ラベル印字機能

はじめに	1
設定方法	1
基本文法	2
1. 文字拡大印字機能	3
2. バーコード印字機能	4
3. O C R印字機能	6

はじめに

本マニュアルは、株式会社イグアス製 DPxxxFI シリーズプリンターの制御コマンドである、簡易ラベルコマンドについて解説いたします。

簡易ラベルコマンドは、通常印刷の中で簡単なラベル印字機能をサポートするオリジナルテキストコマンドです。

DPxxxFI シリーズは、簡易ラベル印字機能として下記をサポートしています。

1. 文字拡大印字機能
2. バーコード印字機能
3. O C R 印字機能

【注意】

- ・バーコードの読み取り率は、用紙・リボン・その他の要因および読み取り環境により変動します。事前に十分なテストを行い、問題のないことを確認してください。

設定方法

文字拡大印字機能を利用するには、設定項目【ツウキノウセッティ】の「カクダイ キウ」を「ムコウ」に設定します。

バーコード印字機能を利用するには、設定項目【ツウキノウセッティ】の「バーコード キウ」をコマンド列に合わせた指定にする必要があります。

この項目の設定値を、”簡易バーコード機能のコマンドデリミター”と呼称します。

簡易ラベル機能を使用するには、設定項目【ツウキノウセッティ】の「カクショウ コマンド」は「ムコウ」を指定する必要があります。

設定項目名	設定値名	機能
バーコード キウ	ムコウ ! # & `	簡易バーコード機能の設定 簡易バーコード機能のコマンドデリミターを設定
カクダイ キウ	ムコウ ムコウ	簡易拡大機能の有効／無効の設定
OCR キウ	ムコウ ムコウ	OCR機能の有効／無効の設定
カクショウ コマンド	ムコウ !#% !@& !#%(2164) !@&(2164) !#%(TYPE1) !@&(TYPE1)	簡易ラベル使用時には「ムコウ」を指定する

【注意】

- ・簡易ラベルコマンドは、P S 5 5, E S C / P の両エミュレーションで有効です。

基本文法

簡易ラベルコマンドは、コマンドにより書式が異なります。
本章では、コマンドごとに書式の解説を記載します。

【注意】

- ・本機能は、ある特定の文字列（1バイト系ANKコード）を制御コマンドとして認識し、個別の印字機能を実現するものです。2バイト系漢字コードでは機能しません。
- ・文字コード列をコマンドとしていますので、プリンタードライバなどで文字 자체をイメージデータに変換された場合は、コマンドとして認識できませんので、正常に動作しません。
- ・見た目には連続している文字列でも、OSやアプリケーションによっては文字と文字の間に制御コマンドを挿入する場合があり、この場合も正常に動作しません。
また、OSやアプリケーションのバージョンによっても制御が異なる場合があり、拡張コマンドを意識せず使用している場合は、問題が発生する可能性があります。

1. 文字拡大印字機能

[機能]

本コマンド以降にある文字に対して拡大印字を指定するものです。
改行動作もしくは再指定を行わない限り指定は有効です。
拡大文字の書出し位置は、指定された行の最初の%の文字位置からとなります。

[書式]

% % X Y P % %

[パラメータ]

X : 1～9の1バイト系ANK文字が使用可能です。
水平方向の拡大率（1～9倍）を指定します。

Y : 1～9の1バイト系ANK文字が使用可能です。
垂直方向の拡大率（1～9倍）を指定します。

P : A～Dの1バイト系ANK文字が使用可能です。
基準となる文字ピッチ（下記参照）を指定します。

P	基準となる文字ピッチ
A	10 CPI
B	12 CPI
C	13.3 CPI
D	15 CPI

- ・Y、Pは同時に省略可能です。その場合、YはXと同じ値となり、Pは現在の文字ピッチが有効となります。
- ・本コマンドによる指定は、現在行のみ有効で、次行には影響しません。
- ・同一行における複数の指定（変更）も可能です。
- ・垂直方向の拡大は、現在行から下への拡大となります。
- ・垂直方向への拡大指定の場合は、次行以降への重ね印字も可能です。
- ・文字のない部分（スペースコード）についても指定した拡大および文字ピッチは有効です。

【注意】

- ・帳票設計の際、スペースコードを含めて拡大等の指定を行うと文字の位置決めが非常に困難なものとなります。文字の存在しない部分（スペースコード部）は指定を解除するよう指定すれば、比較的簡単に設計できます。
指定を行いたい文字列を本コマンドで挟み込むような形で作成してください。
- ・プログラミングの際、拡大する部分を1つのフィールドにまとめて設計すれば、影響が少なくなります。
- ・垂直方向拡大でボトムマージンを越える場合は、超えた分は次のページへ印字されます。
- ・文法エラーの場合は、そのまま文字を印字します。

2. バーコード印字機能

本項では、設定項目【ツウキノウセッティ】の「バーコード キノウ」で、簡易バーコード機能のコマンドディミターが”#”に設定されているものとして解説を行います。

[機能]

横方向へのバーコード印刷を行います。

バーコードの書出し位置は、指定された行の最初の#の文字位置からとなります。

[書式]

N L # (データ)

[パラメータ]

N : 1～9、A～C、Zの1バイト系ANK文字が使用可能です。
バーコードの種類を指定します。

詳細は下表および[各バーコードについての注意点]を参照してください。

L : 1～9の1バイト系ANK文字が使用可能です。
バーコードの高さを行単位で指定します。

(データ) : バーコード・データを指定します。
有効値は下表を参照してください。

N	種類	使用可能データ		
1	JAN 標準	0～9		
2	予約			
3	予約			
4	CODA BAR (NW-7)	0～9	ABC DENT	*. + : / \$ -
5	CODE 39 (Normal)	0～9	A～Z	- . * \$ / + % SP
6	予約			
7	JAN 短縮	0～9		
8	CODE 39 (Wide)	0～9	A～Z	- . * \$ / + % SP
9	CODE 39 (Narrow)	0～9	A～Z	- . * \$ / + % SP
A	CODA BAR (NW-7)	0～9	ABC DENT	*. + : / \$ -
B	CODA BAR (NW-7)	0～9	ABC DENT	*. + : / \$ -
C	CODA BAR (NW-7)	0～9	ABC DENT	*. + : / \$ -
Z	予約			

- ・バーコードの高さは、行単位による指定で現在の行ピッチに従います。
- ・同一行における複数の指定も可能です。
- ・複数行(高いバーコード印字)指定を行った場合は、現在行から下への印字となります。
- ・複数行指定を行った場合は、次行以降への重ね印字も可能です。

[各バーコードについての注意点]

- JAN 標準 [N=1]
データ部は、13桁固定です。
- CODA BAR (NW-7) [N=4]
異なるものを、他に“A”、“B”、“C”と3種類用意しておりますので、最適なサイズを選択してください。START/STOP キャラクタは(データ)部に付加してください。
- CODE 39 (Normal) [N=5]
サイズの異なる“8”(Wide)と“9”(Narrow)を用意しておりますので、最適なサイズを選択してください。START/STOP キャラクタは(データ)部に付加してください。
- JAN 短縮 [N=7]
データ部は、8桁固定です。
- CODE 39 (Wide) [N=8]
サイズの異なる“5”(Normal)と“9”(Narrow)を用意しておりますので、最適なサイズを選択してください。START/STOP キャラクタは(データ)部に付加してください。
- CODE 39 (Narrow) [N=9]
サイズの異なる“5”(Normal)と“8”(Wide)を用意しておりますので、最適なサイズを選択してください。START/STOP キャラクタは(データ)部に付加してください。
- CODA BAR (NW-7) [N=A]
異なるものを、他に“4”、“B”、“C”と3種類用意しておりますので、最適なサイズを選択してください。START/STOP キャラクタは(データ)部に付加してください。
- CODA BAR (NW-7) [N=B]
異なるものを、他に“4”、“A”、“C”と3種類用意しておりますので、最適なサイズを選択してください。START/STOP キャラクタは(データ)部に付加してください。
- CODA BAR (NW-7) [N=C]
異なるものを、他に“4”、“A”、“B”と3種類用意しておりますので、最適なサイズを選択してください。START/STOP キャラクタは(データ)部に付加してください。

【注意】

- 帳票設計の際、バーコード印字を行った同じ行の右側に文字を印字する場合は、位置決めが非常に困難なものとなります。これは、バーコードの種類やデータ内容により、バーコードの終端が異なることが原因です。
従いまして、バーコードより右側への印字の際は、実際にテスト印字を行って印字位置の確認を行ってください。
- プログラミングの際、本コマンドを1つのフィールドにまとめて設計すれば、プリンタードライバ等の影響が少なくなります。
- 複数行(高いバーコード印字)指定の印字でボトムマージンを越える場合は、超えた分は次のページへ印字されます。
- 文法エラーの場合は、そのまま文字を印字します。
- 本コマンドで指定したバーコードは、印字速度の設定／切替えコマンドに関係なく、1／180インチピッチで印字します。
- バーコードの読み取り率は、用紙・リボン・その他の要因および読み取り環境により変動します。実際のご使用にあたっては事前に十分なテストを行い、問題のないことを確認してください。

3. O C R印字機能

[機能]

本コマンドにより指定された文字ピッチでO C R－Bの文字を印字するものです。

改行動作もしくは再指定を行わない限り指定は有効です。

拡大文字の書出し位置は、指定された行の最初の&の文字位置からとなります。

[書式]

& P & & &

[パラメータ]

P : A～Dの1バイト系A N K文字が使用可能です。

基準となる文字ピッチ（下記参照）を指定します。

P	基準となる文字ピッチ
A	1 0 C P I
B	1 2 C P I
C	1 3. 3 C P I
D	1 5 C P I

- ・O C R－Bの文字での印字は、指定された文字列のみ有効です。
- ・同一行における複数の指定(変更)も可能です。
- ・文字のない部分(スペースコード)についても指定した文字ピッチは有効です。
- ・パラメータが無効値の場合は、文字データとして印字される。
例) コマンド:& E & (データ) && ⇒ 印字結果:& E & (データ) &&
- ・(データ)部に制御コマンドが指定された場合は、コマンド直前までのデータはO C R－Bの文字で印字され、コマンド以降のデータは、コマンドで指定された動作に従うと共に、通常の文字にて印字される。（O C R－Bで印字されない）